～叙勲・褒章受章～

長年の功績に栄誉

このほど叙勲・褒章が発表され、本市から10人の皆さんが受章されました。ここで、受章された５人の経歴とコメントを紹介します。

※５人は掲載を辞退。

――自分の手で、生命・財産を守れることがやりがいです

瑞宝単光章

消防功労

印南（いんなみ）　孝平（こうへい） 氏（71歳）

昭和42年、塩原町消防団に入団。平成16年からの４年間は消防団長を歴任し、平成20年に退団するまで住民の安全安心を守り続けた。

18歳で消防団に入団し、36年もの長きに渡り市民のために活動してきた印南さん。「今回受章できたのは地域の皆さんを始め、何をしていてもサイレン一つで出動しなければならない状況に、そっと見守ってくれた妻や家族のおかげ」と感謝の気持ちを伝えてくれた。

大変だったのは、平成12年10月に湯本塩原地内で発生した行方不明者の捜索活動。団員たちに二次災害が起きぬよう約19時間にも及ぶ捜索の指揮を執ったという。また、塩原町消防団長となった平成16年には、当時2分団制だったものを現在の4分団制に編成することにも尽力。常に「良い形にするにはどうしたらよいか」を考えながら行動していたそうだ。「自らの手で火災や災害から生命・財産を守り、また消防団の活動によって、それらを未然に防ぐことができたときは、本当にやってよかったと思った」と当時を懐かしみながら話してくれた。

受章にあたり、「家族や職場の同僚が、長年にわたり支えてくれたおかげ。特に、毎日健康に気を配ってくれた妻には、とても感謝している」と語ってくれた髙橋さん。16歳で郵政省の職員となり、千葉県、埼玉県を拠点に郵便物の集配業務や営業に汗を流した。33年間の勤務経験の中で苦労したのは、転勤をきっかけに始まった長時間通勤。夜勤を終えると午前0時を過ぎていて、終電を逃し途方に暮れることもしばしばあった。しかし、公私にわたって顔見知りの人々が増え、地域に貢献できる仕事に、大きなやりがいを感じたという。

長年の趣味は、知らない土地を見て歩き、現地の人とふれあうこと。「同僚との旅行中、偶然現地の郵便局員と親しくなり、町や職場を案内してもらったことが印象深い思い出。新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いたら、また国内外を旅行したい」と朗らかに笑った。

――郵便集配を通じて、多くの人と顔見知りになりました

瑞宝単光章

郵政業務功労

髙橋（たかはし）　典利（のりとし） 氏（65歳）

昭和46年、郵政省（後に民営化。現・日本郵政株式会社）に入省。千葉県松戸郵便局、埼玉県越谷郵便局に配属される。33年間にわたって郵政業務に携わり、平成16年に退職。

――昼夜を問わず協力してくれた仲間に、感謝しています

瑞宝単光章

矯正業務功労

平山（ひらやま）　晴康（せいこう） 氏（63歳）

昭和50年、川越刑務所に刑務官として奉職。平成29年に喜連川社会復帰促進センターを退職するまで被収容者の更生と社会復帰に尽力した。

「率直に光栄」と平山さんは受章の感想を話し、続けて「今まで出会えた上司、先輩、同僚のご指導とご助力があったこと、そして、何よりも分かち合える家族がいたから」と振り返ってくれた。被収容者の更生と社会復帰に貢献するためさまざまな業務を担ったそうだが、特に思い出深いのは「一番長く携わった、職員配置に係る業務」だと平山さんは話す。「昼夜を問わず、緊急出勤を要することが多い中で、家庭を犠牲にして協力してくれたことに感謝している」と理由を語ってくれた。

「親族や生活の場が全くない被収容者を、福祉機関と連携して社会復帰につなげたとき」とやりがいを教えてくれた。今後のことを尋ねると、「地元の方々と野球やソフトボールを楽しみながら健康維持に努めてきたので、まずは早く以前の日常に戻っていくことを願っている」と優しく話してくれた。

――凶悪犯を追い、捜査に明け暮れた日々を思い出します

瑞宝双光章

警察功労

益子（ましこ）　博雄（ひろお） 氏（72歳）

昭和42年に栃木県警察官を拝命。主に県北、県央の警察署で治安維持のために尽力し、平成21年に栃木県警視として退職。現在も地域のためにさまざまな活動をしている。

過ちを犯した人を地域で排除しないで、社会復帰できるよう支援する保護司の活動。「これまで先輩保護司や多くの仲間に支えられた結果で、深く感謝している」と鈴木さんは率直な思いを話してくれた。

「過ちを犯した人も、一人になると私たちの話に耳を傾けてくれる」と鈴木さんは話す。ある集会で、鈴木さんは「先生、先生」と声をかけられたそう。「教員経験がないので初めはピンと来なかったが、話しているうちに以前担当した対象者と分かり、更生した姿に胸が熱くなった」と心に残るエピソードを教えてくれた。

まもなく保護司の定年を迎える鈴木さん。「今後は卓球とゴルフを続けたい。そして、11年続いている生きがいサロンを中心に、地域において私たち高齢者が心身ともに健康でいきいきとした日々を送れることを願っている」と元気に語ってくれた。

――対象者が立派に更生した姿に、胸が熱くなりました

藍綬褒章

更生保護功績

鈴木（すずき）　正義（まさよし） 氏（76歳）

平成11年から保護司の活動を始め、以後21年間にわたり更生保護に尽力。現在、那須保護区保護司会会長や越堀地区の生きがいサロン会長を務めている。